

大学認証評価における大学図書館評価の研究
—大学基準協会、大学評価・学位授与機構、日本高等教育評価機構
の評価結果の内容分析から—

Research of Academic Libraries in Certified University
Evaluation and Accreditation:
Content Analysis of Japanese Evaluation Results

学籍番号：201321638
氏名：高池宣彦
Norihiko TAKAIKE

本研究の目的は、高等教育全体の発展に貢献できる大学評価と大学図書館評価のために、日本の認証評価において大学図書館がどのように評価されてきたのかを明らかにすることである。

2004（平成16）年に日本の大学に対して、認証を受けた評価機関による第三者評価（以下、「認証評価」という。）が義務化された。先行研究の調査の結果、認証評価の中での大学図書館に関する評価は、分析・活用が進んでいないことが分かった。そこで本研究では、「認証評価において大学図書館は、資料・施設・設備の観点以外の点でも評価されている」という仮説を立て、認証評価が始まった2004年度から2013年度までの、大学基準協会、大学評価・学位授与機構、日本高等教育評価機構の認証評価結果の図書館部分についての評価分析と内容分析を行った。さらに、別の観点からも検証するため、大学図書館における先進的な取り組みの実践例（文部科学省）と認証評価結果、自己点検・評価報告書の比較分析を行った。

主な結果は以下のとおりである。

まず、評価結果の長所、優れた点について、「社会貢献」（大学基準協会・第1サイクル9%）、「社会連携」（日本高等教育評価機構・第1サイクル：35%）や、「教育内容・方法」（大学基準協会・第1サイクル：3%）、「教育内容及び方法」（大学評価・学位授与機構・第1サイクル：7%）、「学生支援等」（大学評価・学位授与機構・第1サイクル：9%）の観点からの評価が確認できた。また、認証評価結果の助言・一層の改善・努力課題、更なる向上が期待される点、参考意見、勧告・改善勧告、改善を要する点の分析では、長所、優れている点ほどではないが、資料・施設・設備の観点以外の評価を確認できた。さらに、テキスト分析や大学図書館における先進的な取り組みの実践例（文科省）と認証評価との比較分析でも、資料・施設・設備以外の観点での評価が認められた。

本研究は、3機関の10年分の認証評価結果の図書館部分を全て調査・分析した初の試みである。その結果、評価項目や一部の結果だけでは分からず大学図書館の評価が明らかとなった。さらに、本研究の分析は、全ての日本の大学と大学図書館を評価した認証評価を対象にしていることから、大学内における大学図書館のあり方を考える上で、示唆を与えるものである。

研究指導教員：逸村裕
副研究指導教員：大庭一郎